

O3-009

健常児の親へ医療的ケアの理解を促すための
保育者の支援 -地域でともに過ごす医療的
ケア児の親の思いに焦点を当て-木田 優子¹、田城 孝雄²¹弘前学院大学看護学部²放送大学大学院文化科学研究科

【目的】

医療的ケア児の親に、健常児の親と地域で過ごす中での思いについてインタビューを行い、健常児の親へ、医療的ケアの理解を促すための保育士や教師（以下、保育者とする）からの支援方法を考える一助とする。

【方法】

対象者は、保育や教育の場で日常を健常児と過ごす医療的ケア児の親5名とした。研究デザインは質的帰納的アプローチによる因子探索型研究とし、分析方法は半構造化面接で得た言動・反応を抽出、類似・共通するもので分類・整理してカテゴリー化した。本研究は、所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号21-03)。

【結果】

3カテゴリー【】と9サブカテゴリー《》が生成された。

【医療的ケアを理解してほしい】では、医療的ケア児の親は、健常児の親に《医療的ケア児やその親の状況を理解してほしい》、《医療的ケア児の親の思いを知ってほしい》と考えていた。医療的ケアに興味を示した健常児への親の対応には、《医療的ケア児やその親に対する健常児の親の思いが理解できる》と感じていた。

【住んでいる地域で安心して過ごしたい】では、《住んでいる地域で子育てがしたい》と願い、医療的ケア児が安全・安心して過ごすために《地域で過ごすために医療福祉専門職の支援が必要》であり、《健常児の親には特別な関わりは求めている》。また、同じ状況のこどもの親と接する機会が多く、《健常児の親と医療的ケア児の親との交わりは難しいと感じる》と述べていた。

【医療的ケア児・健常児それぞれの成長発達を促す】では、日々の生活で《医療的ケア児・健常児が共に過ごすことはお互いの成長発達につながる》、《健常児と幼児期から一緒に過ごさせたい》と感じていた。

【考察】

医療的ケア児数は健常児数に比べ圧倒的に少ないために、健常児の親には認知がされにくい。そのため、《医療的ケア児やその親に対する健常児の親の思いが理解できる》が、同じ子育てをしている親だからこそ【医療的ケアを理解してほしい】という思いがあると考えた。また、医療的ケア児とその親が住み慣れた地域で過ごすことができるのは、地域の中で存在を認められたと感じることにつながる。保育者は、《医療的ケア児の親の思いを知ってほしい》思いを理解した上で、医療的ケア児の親との関係を構築し、健常児の親が医療的ケアを理解できるような支援が必要である。

O3-010

2歳児を育てている母親のしつけに
対する思い佐藤 睦美¹、森 莉那²、山本 弘江²¹愛知医科大学大学院 看護学研究科²愛知医科大学 看護学部

【目的】

体罰禁止という児童福祉法および児童虐待防止法の改正や社会の変化により、ますます世間の目が母親のしつけに対して厳しくなることが予測される中、第一次反抗期で言葉の獲得途中である2歳児を育てている母親はしつけの困難さや不安などの思いを抱えながら子育てをしていることが推察される。しかし、母親が普段行っているわが子へのしつけに対する思いについては明らかにされていない。そこで、2歳児を育てている母親のしつけに対する思いを明らかにする。

【方法】

1グループ4名程度のフォーカス・グループ・インタビュー（以下FGIとする）を用いた質的記述的研究を行った。研究参加者は、A県内の2歳児を育てている母親11名で、子育てサークル等を通じた機縁法および雪だるま式サンプリングによって依頼した。3回のFGIで得られた逐語録を基に、質的帰納的に分析した。なお、本研究は所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

3名から4名のFGIを3回実施し、349のコードから59のサブカテゴリー、13のカテゴリーが生成された。カテゴリーは、『言葉で伝えあうことのできない2歳児のしつけの難しさ』、『社会で生きていくための基本的なルールを子どもにしつけたい』、『子どもの気持ちと主体性を大事にしたい』、『母親として子どものために模索しながらしつけと向き合う』、『怒らないように心掛けながら子どもと向き合う』、『感情のままに子どもを怒ってしまった後の落ち込み』、『夫と一緒にしつけをしたいという期待と現実とのギャップ』、『一人で行う子育てやしつけに追い詰められる』、『SNSからの情報に振り回される』、『他者のしつけと比べることによる気持ちの揺れ』、『子どもが外で泣くことへの世間の厳しい目に対する複雑な思い』、『世間の虐待への意識の高まりから思うようにしつけができない』、『周囲の人とつながりが持てる環境への期待』であった。

【考察】

13のカテゴリーから、わが子のしつけへの思い入れや、子育てやしつけを一人で行う母親の苦悩、厳しい世間の目に対する思い、周囲への期待といった母親の思いが明らかとなり、子育てやしつけについて母親同士や家族、社会がつながる支援への示唆を得ることができた。